

1. 決算統計業務の現状分析結果(1/2)

現状分析の結果から得られた課題をもとに決算統計業務のあるべき姿を提案します。

現状分析のまとめ

決算統計に必要な情報源は、財務会計システム(科目、事業、決算額)と予算編成システム(事業の性質別や財源などの分類)

決算情報は各課・各部局主管課で独自の様式で整理され、財政課指定様式にて財政課に提出

財務会計システムや予算編成システム以外からの情報も独自に収集、管理が必要

財政課の部局担当主査や帳票担当による確認、円単位から千円単位へのまるめ調整

財政課で、確定額を総務省決算統計システム(EXCEL)に入力、決算統計キャップの確認

総務省決算統計システムからdatファイルを出力し、総務省地方財政決算情報管理システム(Web)へdatファイルをアップロード、別途総務省に指定様式の紙を提出

総務省からの追加調査・追加資料提出依頼への対応

抽出した現状の課題

課題1 EXCELをベースとした手作業で膨大な時間を要する

1-1 部局からの提出資料は紙で目視確認を行っている

1-2 千円単位のまるめ調整に時間がかかる

1-3 エラーとなった場合の再確認、数値の調整の手間を要する

課題2 各システムで有する情報の不足および事業管理の不一致

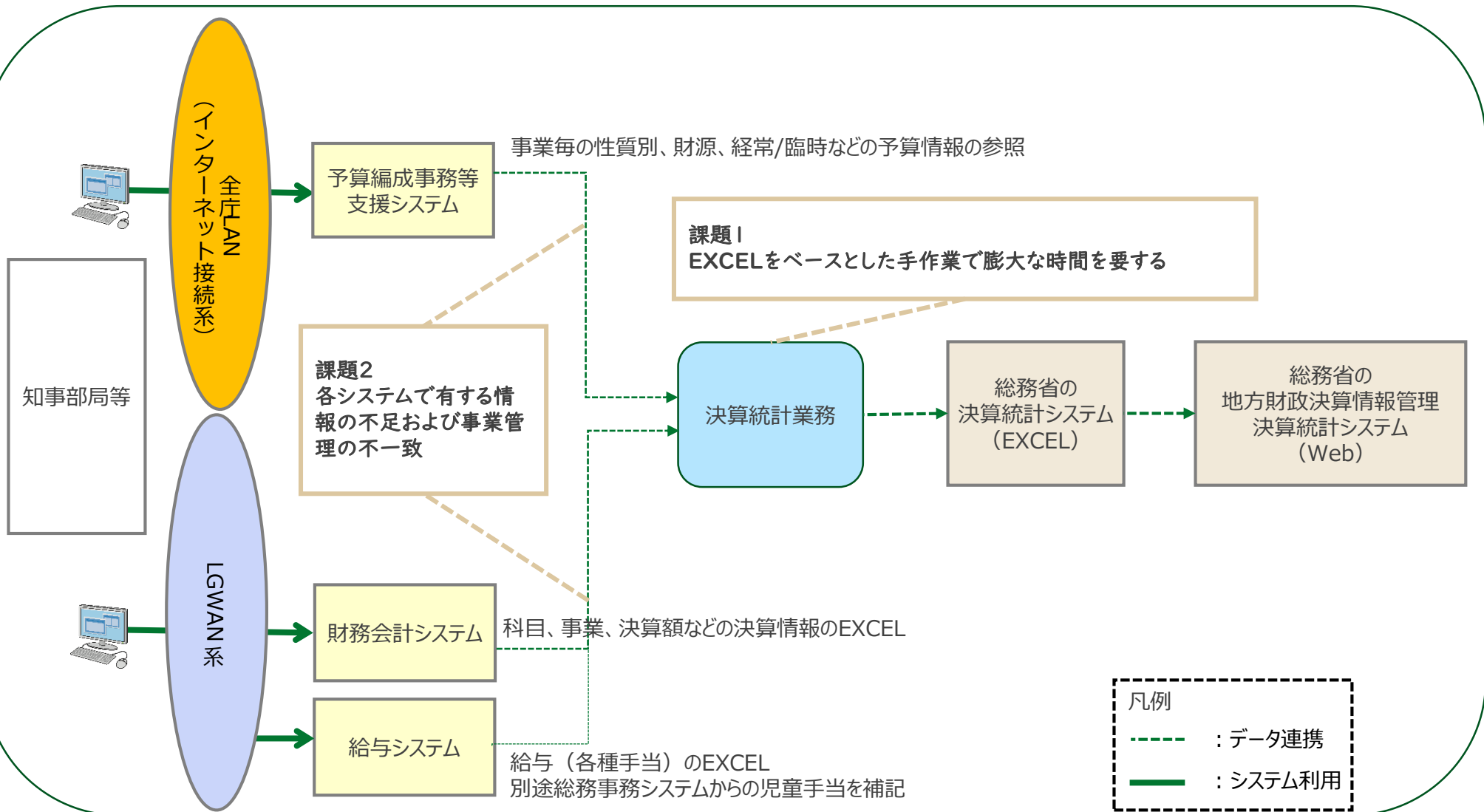
2-1 予算編成システム、財務会計システムとも決算統計に必要な項目に不足がある

2-2 決算統計へデータ連動するための財務会計・予算編成の事業管理が異なる場合がある

対策

決算統計業務を支援し、作業を効率化に資する情報システムの活用

1. 決算統計業務の現状分析結果 (2/2)



2. 決算統計業務のあるべき姿(1/4)

(1) 課題I EXCELをベースとした手作業で膨大な時間を要することへの対応(1/2)

あるべき姿

- ・決算統計業務を支援する情報システムを活用した、業務の効率化

システム整備に向けての考え方

- ・決算統計業務は、調査内容が多岐に渡るため、システムで業務のすべてを自動化することを目的とはせずに、業務を支援するものであること
- ・最初にすべての機能を有するものとはせずに、一部の作業支援を実現したのちに、効果を検証し機能の拡充を図るものとする
- ・現行の作業も併用できるものとし、既存のExcelからのデータの取込などで検証できるものであること
- ・毎年仕様が変わる可能性があることから、柔軟に対応できるものであること

システムの実現方法

他自治体事例調査結果では、予算編成システムの一機能や財務会計システムの一機能で実現している事例や、外付けのシステムとして別途整備している事例がある。予算編成システム、財務会計システムの次期システムの方向性と合わせ、実現方法については、提案を求めて最適な方法を決定する。

2. 決算統計業務のあるべき姿(2/4)

(1) 課題I EXCELをベースとした手作業で膨大な時間を要することへの対応(2/2)

想定するシステム機能と利用ユーザ

- ・年度切り替え:財政課
 - ・データ登録(財務会計、予算編成、給与の各システムデータおよびEXCELで保有する個別データ):財政課、部局
 - ・事業、歳入、歳出、個表登録:部局
 - ・決算額補正:財政課、部局
 - ・千円単位補正処理:財政課、部局
 - ・登録データの削除、修正:財政課、部局
 - ・データチェック処理(個表、表間:部局単位、総計単位:総務省システムの検算と同機能):財政課、部局
 - ・各個表出力:財政課、部局
 - ・増減表出力:財政課、部局
 - ・各種管理機能:財政課
- 利用者管理
コード管理
総務省提供、システム用の初期設定データ、表内検算、表間突合のチェックデータ

2. 決算統計業務のあるべき姿 (3/4)

(2) 課題2 各システムで有する情報の不足および事業管理の不一致 (1/2)

あるべき姿

- ・予算編成システムおよび財務会計システムで決算統計業務に必要な情報を保持し、データ連携を行う
- ・予算編成システムおよび財務会計システムで事業を1対1で管理する

データ連携に向けての考え方

- ・以下の表の通り、予算編成システムおよび財務会計システムで決算統計に不足している項目を追加、保持する

管理情報	予算編成業務	予算編成システム	財務会計業務	財務会計システム	決算統計
科目	○	○	○	○	○
事業	○	○	○	○	○
経費 (主要経費/一般行政経費)	○	○		×→○	○
経費 (一般行政経費/各経費)	○	○		×→○	○
財源	○	○		×→○	○
性質別経費	○	○		×→○	○
性質別経費の分類 (通常/震災/防災)	○	○		×→○	○
経費分類 (経常/臨時)	○	×→○		×→○	○

凡例

……情報が必要

……情報は不要

○ ……現在情報を管理している

× ……現在情報を管理していない

2. 決算統計業務のあるべき姿(4/4)

(2) 課題2 各システムで有する情報の不足および事業管理の不一致(2/2)

事業管理の一致

予算編成システムから出力したCSVデータより作成した事業別予算登録票を基に財務会計システムにデータを取り込んでいるが、その際に予算編成上の事業を分割または統合しているケースがある。

決算統計のシステム化を行う際に予算編成、財務会計、決算統計各システム間での情報共有が必要となるが、その際の足かせとなる。

このことから、今のやり方を見直し、予算編成と財務会計上の事業を一致させる。